

2017年9月25日　日本テレビ 定例記者会見

《 要旨 》

＜発表＞

・ 映画「斎木楠雄のΨ難」

「斎木楠雄のΨ難」は10月21日公開。面白い映画なので、ぜひ映画館に足を運んでいただきたい。

・ 国連ビデオキャンペーンに木原さん・そらジローが参加！

国連の世界気象機関が主催する気象キャスターのビデオキャンペーンに木原さんとそらジローが日本代表として参加する。日本メディアからは唯一の参加である。

・ 日テレ通販事業が「日テレポシュレ」へ

日本テレビの通販事業を「日テレポシュレ」というブランド名にて統一し、地上波、BS、CS、Webでマルチ展開する。これを機にオリジナル商品開発により一層注力していく。

1. 視聴率動向と編成戦略

・ 視聴率データ

先週の視聴率は年間で35回目、年度24回目の三冠王だった。その前週が二冠だったため三冠王の連続記録は途切れてしまったが、先週の三冠王獲得で、番組制作の現場は張り切って再スタートしている。

・ 視聴率戦略・改編等について

10月期はほぼ改編はないが、これまでもレギュラー編成重視という編成戦略の下、リブランディングを繰り返してきた。ノンプライム、全日帯においても、出演者の変更等々で力を入れ、ベルト番組を中心とした全日帯の視聴率底上げに集中的に取り組んでいく。

2. 営業状況

・放送収入

スポットの地区投下率は年明けから前年割れの非常に厳しい状況が続いていたが、8月はようやく前年をクリアでき、ほっと一息ついている。9月の状況はまた厳しく、前年並みまで届けばいいと思う。全体としては前年並みの水準だ。

・放送外収入

9月24日に「ディズニー・アート展」が無事終了した。お台場の日本科学未来館で4月から153日間開催したが、入場者数は47万3,900人と目標を大きく上回って終わることができた。これは日本科学未来館で行われた企画展の中でも過去最高の入場者数だった。続いて、大阪市立美術館で10月14日から来年の1月まで開催される。

映画「メアリと魔女の花」の興行収入は9月24日の時点で32億円を超えた。新しいアニメ映画制作会社「スタジオポノック」の初作品が30億円を超え、米林監督、西村プロデューサーをはじめ、みなさんの苦労が実って良かったと思う。

3. その他

・NHKの常時同時配信について

NHKの表明した「放送の補完」と位置付けるという点や、2019年度からスタートさせたいという時期の問題、そして受信料等をめぐる見解については民放連と同じだ。サービスの開始時期ありきではなく、NHKはネットと放送の位置付けについてきちんと考え方を説明して理解を得るべきだと思っている。

また、地域制限については地方局から要望が強く出ており、民放連としても、検証実験の段階から地域制限を取り入れ、調査結果を開示してほしいと要望してきた。10月に実施予定とされている実験はそういったことにNHKが応えてくれたと受け止めてはいるが、非常に限定的なもので、これで十分かどうか、評価はもう少しきちんとした見解を示していただきたい。

NHKと民放は放送における二元体制を維持してきたが、インターネットの話については、NHKの事業がSVOD事業者等の民業圧迫につながるという懸念を持っている民間事業者がたくさんいる。今回の実験の見逃し配信や早戻し配信等のサービスは、常時同時配信とは違う事業だ。NHKにはその必要性、民間事業者への影響、そしてそもそもどのように事業を展開していくのか等々、もう少しきちんとした見解を示していただきたい。

NHKは受信料を財源として民放よりもはるかに大きな予算規模を持っている。二元体制を守るとNHKも言っている以上、そういった観点から自分たちの事業がどうあるべきかということを、丁寧に慎重に、民間事業者の声を聞きながら考えていただきたい。

・安室奈美恵さん引退に関して

安室奈美恵さんは素晴らしいアーティストで、日本の音楽やダンス、パフォーマンスの分野で非常に大きな実績を残された。この世界をけん引してきたことに心から敬意を表している。たくさんの安室さんのファンと同様に引退されることを残念に思うが、ご本人の決断とのこと。来年の9月までの1年間は活動を続けるということで、これから1年間本当に実り多い、また私たちファンの記憶に残る素晴らしい活動を期待している。また安室さんが25周年、まもなく日本テレビも65年。以前から、周年同士で何か一緒にやろうということを話しており、10月からHuluにてドキュメンタリーが配信される。この後もできるのであれば、一緒に仕事をさせていただきたいと強く思っている。

・BPO放送倫理検証委員会 9月8日付 委員長談話について

インターネット上の情報の扱いについては、今回の談話をうけて、独自の裏取りをしてから使用するという原点に改めて立ち返り、正確を期すということを肝に銘じていきたい。

・10月改編におけるアナウンサー交代等に関して

10月の改編でいろいろな番組でアナウンサーの担当替えがある。全てのアナウンサーには新しい番組で、これまで以上に精進して力を発揮してもらいたいと思っている。

・選挙報道について

選挙報道は、正確に迅速にということに尽きる。政治と報道の在り方についても、視聴者に信頼されるよう、報道機関として公平公正であるという基本的な立場を維持し、その責任を果たしていく。

【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員

中山良夫 取締役 執行役員

福田博之 執行役員 編成局長

(了)